

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」出町柳校

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			同時刻に指導員の数の受入なので時間帯や支援の組み合わせ、こどもの特性に合わせてスペースを作っている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			法令で必要とされる配置数に加え、指導員を3名以上配置しています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		過度な情報にならないようにシンプルなつくりの環境で障がい特性に合わせて配慮している。通路や待合室が少し狭いため、車イスの方が送迎される際は、十分なスペースは確保しにくいので、指導訓練室で保護者との振り返りをしている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			児発管を始め、少しずつ意識出来ているように思う。各々が短期、長期目標を設定し、それに向け努力している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			今回のアンケートをもとにすぐに改善できるものと段階が必要なものとに分類化し、業務改善につなげる。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			事業所内で評価結果を周知するとともに、評価・改善内容について会社に集約しホームページにて公開する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	現在は利用者・社内の2者評価とっています。第三者による外部評価については現在実施の予定はありません。今後必要に応じて実施を検討致します。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			会社の発達支援研究所が職員の資質向上のための初任者研修・定例研修を実施している。
適切な支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			受付シートに記入してもらった後、聞き取りにてアセスメントを行い、体験・支援計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			計画期間ごとにアセスメントを実施している。

の 提 供	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	児発管と担当指導員、必要に応じて他の指導員のアドバイスを心得て支援プログラムを立てている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	日々振り返り等で近々の状況を確認し、プログラムに活かしている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○	平日・休日関係なく45分療育、15分振り返りの1時間の支援なので、大きく課題を変えることはない。こどもの状況に応じて配慮する場合はある。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	個別療育であるが、集団生活につながるためのSSTなどを療育の中で実施。イベントなどは定期にはしていない。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	朝のミーティングにて必要な連携の確認を行う。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	療育の空き時間や次の日のミーティングで共有している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○	日々の記録を取り、支援の検証・改善につなげている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○	日々の振り返りに加え、定期的にモニタリングで支援計画について見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか		○	こどものニーズに合わせて複数組み合わせ支援を行っている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		○	サービス担当者会議がなく、参加の機会がない。体制的には担当者もしくは児発管が参加できるようにしている。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか		○	保護者からの要望がある場合、訪問し情報の共有を図っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	ハード面や時間設定から利用される方は現在いないが、利用されるのであればきちんと連携を取っていく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	保護者からの要望がある場合、訪問し情報の共有を図っている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	保護者からの要望がある場合、訪問し情報の共有を図っている。

護 者 と の 連 携	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	連携の姿勢はあるが実施できていない。家族や相談支援機関とうまく連携して実施していきたい。研修には参加している。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	交流する機会がないので、職員に見学に行ってもらうなど交流と理解を深め、一緒にできる方法があるか探っていく。
	②⑦	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか		○	参加できていないので、参加していきたい。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の振り返りの中で共通理解を持っている。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	家族へのアドバイスや相談に乗ることはあるが家族支援プログラムとして明確には行っていないため、今後勉強していきたい。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に丁寧に説明している。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		日々の振り返りやモニタリング時、必要に応じて時間を取って保護者の相談に応じている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	個人情報保護の観点からも積極的な保護者同士の連携は行っていません。今後要望や必要性を感じたら検討していきたい。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		迅速に対応している。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		定期的な会報はないが、各生徒に行事カレンダーを配布し、教室には行事予定等を盛り込んだカレンダーを提示している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	○		鍵のかかる書庫にて管理している。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		視覚的ツール等活用している。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	地域の方が参加できるようなイベントは実施していないが、問い合わせがあればどの方でも来ていただけるようにしている。
非 常 時 等 の	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		各種マニュアルを準備、いろいろな事案に対する訓練も月に1回程度で行っている。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		非常災害に対する定期的な訓練を行っている。

対応	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			1年に1回以上研修を行っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			運営規程や身体拘束についても重要事項説明書に明記し、該当する児童がいれば対応していく体制を整えている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	支援中に食事をとることがない。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットの事例について自事業所の分はもちろん自社提携の事業所の情報も共有している。

保護者等向け 放課後等デイサービス評価の集計結果（公表）

公表： 2020 年 2 月 8 日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」出町柳校

保護者等数（児童数）： 46 回収数： 37 割合： 80 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見、ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	24	6		広い部屋とそうでない個室があるので、判断しかねるという意見があった。夕方はご利用する方も多いため、そういったことがあります。また、他の利用者療育内容によって個室になったりすることもあります。個室ばかりにならないよう輪番制にしたりしています。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	27	4		担当の先生が今まで何度も変わっていて教室の先生のバランスも大切だと思うが、担当の先生が変わってしまうのは残念という要望があった。異動の短い期間で交代がないよう配慮し、引きついで職員の指導を徹底する。
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	13	1	・自動ドアにしてほしいとの要望だったが、就学前の小さいお子様が飛び出してしまう可能性があるため、機能としてはあるがスイッチを切っています。 ・車椅子の方が利用する方にとっては、入り口や通路が狭い感じがするという意見があった。
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画 ⁱ が作成されているか	31			
	⑤	活動プログラム ⁱⁱ が固定化しないよう工夫されているか	30	1		
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	9	18	
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	31			
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	31			どうしても送迎が難しく場合、手紙やメモ等で様子詳しく伝えてくれてありがたい。
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	28	2	1	
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の	3	12	16	保護者対象の学習会や勉強会があってもいいかもしれないという要望があった。発達

		開催等により保護者同士の連携が支援されているか				支援研究所へのアプローチができないかを検討する。一方で連携を望まないことも意見としてあった。
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	22	9		
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	28	3		ライン導入が良い。
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	29	2		
	⑭	個人情報に十分注意しているか	30			
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	19	9	3	
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	14	8	
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	26	5		・通所に慣れました。いつも時間調整していただいで満足している。 ・行くのを嫌がったことはない。
	⑱	事業所の支援に満足しているか	28	1		先生の対応に満足しています。

i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。